

Validation Seminar 2006

2006年7月19日(水曜日)～31日(月曜日) 全国8会場で開催した「ナオミ・フェイル氏 2006 バリデーションセミナー」にて、多くの受講者の皆さまがアンケートにご協力くださいました。
アンケート結果を下記にご報告いたします。

アンケート結果報告 (全会場共通)

セミナーに参加してみてものご感想、ご意見をお聞かせください。

- 今まで自分が教わって、良いと思っていた声かけ、言葉かけは、本当に相手の苦しみを取り除くものではなく、その場しのぎであったことがわかりショックだった。また、初めてバリデーションのセミナーに参加させていただき、相手を全て受け入れるという部分に感動し、同時に自分にできるだろうか、と不安にもなった。もっとバリデーションに対する理解を深め、施設の皆も巻き込んで、皆でバリデーションを行なうことができれば、なんて素晴らしいんだろう、と思いました。新たな気持ちで利用者の方と関わりたいです。
- 今まで「うそも方便」とか気晴らし療法を使っていました。その場を早く終らせたくて行っていたため効果的でなかったことが理解できました。ちょっとした時間を使って共感することにより、相手が満足し、お互いにストレスを感じなくてすむのだな、と感じました。
- 自分の今までの介護を振り返れました。「これでいいのかな?」と思いながら利用者さんと関わってきました。今回のセミナーを通して、自分自身のためにも、バリデーションについてもっと勉強していきたいと思いました。
- 認知症に対する考えが改められました。認知症の人に対してのコミュニケーションのとり方次第で、お年寄りにも変化が表れることがわかり、介護する側が変わる必要があると感じました。
- お年寄りだけではなく、他のコミュニケーションでも大切なことを学べたと思います。
- 実際にバリデーションをしているVTRをみることは、とても参考になりました。ナオミさんの演じる姿(ロールプレイ)が分かりやすく、話もかみくだいてくれて、わかりやすかったです。本を読んでわかりにくかった感覚的なものが、少し理解できました。もっとよく知りたいと思いました。
- ナオミ氏の実践と失敗から生まれたバリデーション。現場で働いていて、セミナーで言われていた場面や出来事に似たようなことがあります。私は、ほとんどの場合、否定的な言葉でしか対応できませんでした。今回のセミナーで、共感することの重要性を学びました。お年寄りの心の底がわかるように、向き合いたいです。
- セミナーに来る前には、「どんな技術だろう…」と考えていましたが、話を聞いていくうちに、どれだけ相手に寄り添っていけるか、という人間としての自分磨きなんだなあ、と感じました。相手の気持ちに添う、という意味が理解できたような気がします。